

令和6年度第1回 葛飾区子ども・若者支援地域協議会

日時 令和6年5月10日(金)
午後2時30分より
会場 ウィメンズパル1階
(男女平等推進センター)
多目的ホール

次 第

- 1 開 会
- 2 委員紹介 【資料1】
- 3 議 事
(仮称)葛飾区子ども総合計画の策定について 【資料2】
- 4 閉 会

【配付資料】

- ◆次第
- ◆資料1 葛飾区子ども・若者支援地域協議会委員名簿
- ◆資料2 (仮称)葛飾区子ども総合計画の策定について
- ◆(参考資料) 令和5年度第3回子ども・若者支援地域協議会のご意見等一覧
- ◆(参考資料) 葛飾区子ども・若者基本構想

葛飾区子ども・若者支援地域協議会委員名簿

資料 1

No.	区分	氏名	職名	関係機関及び団体等の名称 (選出区分)
1	学識経験者 【会長】			社会学、児童福祉全般等の学識を有する者
2	教育			葛飾区立小学校長会
3				葛飾区立中学校長会
4				区内都立高等学校長
5				東京都教育庁地域教育支援部
6	福祉			葛飾区民生委員児童委員協議会
7				葛飾区私立学童保育クラブ連盟
8				区内児童養護施設
9				区内障害児通所施設
10	保健・医療			一般社団法人葛飾区医師会
11				公益社団法人葛飾区歯科医師会
12	矯正・更生保護			葛飾区保護司会
13	雇用			墨田公共職業安定所
14	健全育成			葛飾区自治町会連合会
15				葛飾区青少年育成地区委員会 会長連絡協議会
16				葛飾区青少年委員会
17				葛飾区子ども会育成会連合会
18				かつしか子育てネットワーク
19	葛飾区		葛飾区子育て支援部長【副会長】	
20			葛飾区政策経営部長	
21			葛飾区産業観光部長	
22			葛飾区福祉部長	
23			葛飾区健康部長	
24			葛飾区児童相談部長	
25			葛飾区教育委員会事務局 学校教育担当部長	

葛飾区子ども・若者に関する調査報告について

1 葛飾区子ども・若者に関する調査

- (1) 未就学児(5～6歳)の保護者
標本数 1,400 件
回収数(回収率) 684 件(48.9%)
- (2) 小学2年生の子どもの保護者
標本数 1,400 件
回収数(回収率) 727 件(51.9%)
- (3) 小学5年生の子ども
標本数 1,400 件
回収数(回収率) 506 件(36.1%)
- (4) 小学5年生の子どもの保護者
標本数 1,400 件
回収数(回収率) 550 件(39.3%)
- (5) 中学2年生の子ども
標本数 1,400 件
回収数(回収率) 432 件(30.9%)
- (6) 中学2年生の子どもの保護者
標本数 1,400 件
回収数(回収率) 456 件(32.6%)
- (7) 高校2年生の年齢の子ども
標本数 1,400 件
回収数(回収率) 318 件(22.7%)
- (8) 高校2年生の年齢の子どもの保護者
標本数 1,400 件
回収数(回収率) 312 件(22.3%)
- (9) 18歳以上39歳以下の若者
標本数 1,500 件
回収数(回収率) 301 件(20.1%)

2 調査の実施時期

令和5年12月～令和6年1月

3 調査結果の分析を踏まえた今後検討が必要と考える事項について

(仮称)葛飾区子ども総合計画の策定に当たり、現在、本調査結果の分析を進めているところです。本調査結果の分析から、現時点で今後検討が必要と考える主な事項を次に記します。

(1) 相談支援について

○ 子育ての悩み相談

「子育てに関する悩み事があった場合、家族や配偶者以外に気軽に相談できる人や相談先があるか」という設問において、子どもの年齢にかかわらず、「ない」と回答している保護者の割合が前回の調査から増加しており、家族以外の相談先が少なくなっている傾向が見られます。

また、「相談ができる組織や機関を知っているか」という設問においては、前回の調査結果と比較すると、一部を除き「知っている」と回答した保護者の割合が増加した一方で、「知らない」と回答した保護者も一定数存在していることから、相談先の認知度向上を図る必要があります。

【参考】調査結果

問 あなたは、子育てに関する悩み事があった場合、家族や配偶者以外に気軽に相談できる人や相談先はありますか。[ひとつ回答]

未就学児(5～6歳)の保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位：人	単位：%	単位：人	単位：%
1. ある	547	80.0	607	84.0
<u>2. ない</u>	136	<u>19.9</u>	116	<u>16.0</u>
3. 未回答	1	0.1	0	0.0
合計	684	100.0	723	100.0

小学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位：人	単位：%	単位：人	単位：%
1. ある	543	74.7	601	82.7
<u>2. ない</u>	175	<u>24.1</u>	125	<u>17.2</u>
3. 未回答	9	1.2	1	0.1
合計	727	100.0	727	100.0

小学5年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位：人	単位：%	単位：人	単位：%
1. ある	395	71.8	523	79.8
<u>2. ない</u>	147	<u>26.7</u>	130	<u>19.8</u>
3. 未回答	8	1.5	2	0.3
合計	550	100.0	655	100.0

中学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位：人	単位：%	単位：人	単位：%
1. ある	329	72.1	420	79.8
<u>2. ない</u>	120	<u>26.3</u>	105	<u>20.0</u>
3. 未回答	7	1.5	1	0.2
合計	456	100.0	526	100.0

高校2年生の年齢の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位：人	単位：%	単位：人	単位：%
1. ある	214	68.6	357	77.4
<u>2. ない</u>	97	<u>31.1</u>	100	<u>21.7</u>
3. 未回答	1	0.3	4	0.9
合計	312	100.0	461	100

問 あなたは、次の組織や機関で、子育てや暮らしに関する悩みや不安を相談できることを知っていますか。[各項目につき、ひとつずつ回答]

子ども総合センター

		R5(今回)		H29(前回)	
		単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
未就学児 の保護者	1. 知っている	379	55.4	245	33.9
	2. 知らない	290	42.4	449	62.1
	3. 未回答(無効回答含む)	15	2.2	29	4.0
小学2年 生の子ども の保護者	1. 知っている	356	49.0	230	31.6
	2. 知らない	352	48.4	474	65.2
	3. 未回答(無効回答含む)	19	2.6	23	3.2
小学5年 生の子ども の保護者	1. 知っている	286	52.0	177	27.0
	2. 知らない	245	44.5	457	69.8
	3. 未回答(無効回答含む)	19	3.5	21	3.2
中学2年 生の子ども の保護者	1. 知っている	220	48.2	142	27.0
	<u>2. 知らない</u>	228	<u>50.0</u>	373	70.9
	3. 未回答(無効回答含む)	8	1.8	11	2.1
高校2年 生の年齢 の子ども の保護者	1. 知っている	127	40.7	98	21.3
	<u>2. 知らない</u>	174	<u>55.8</u>	351	76.1
	3. 未回答(無効回答含む)	11	3.5	12	2.6

児童相談所

		R5(今回)		H29(前回)	
		単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
未就学児 の保護者	1. 知っている	589	86.1	—	—
	2. 知らない	79	11.5	—	—
	3. 未回答(無効回答含む)	16	2.3	—	—
小学2年 生の子ども の保護者	1. 知っている	605	83.2	—	—
	2. 知らない	95	13.1	—	—
	3. 未回答(無効回答含む)	27	3.7	—	—
小学5年 生の子ども の保護者	1. 知っている	466	84.7	—	—
	2. 知らない	66	12.0	—	—
	3. 未回答(無効回答含む)	18	3.3	—	—
中学2年 生の子ども の保護者	1. 知っている	391	85.7	—	—
	2. 知らない	53	11.6	—	—
	3. 未回答(無効回答含む)	12	2.6	—	—
高校2年 生の年齢 の子ども の保護者	1. 知っている	182	58.3	—	—
	2. 知らない	122	39.1	—	—
	3. 未回答(無効回答含む)	8	2.6	—	—

児童館や子ども未来プラザ

		R5(今回)		H29(前回)	
		単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
未就学児 の保護者	1. 知っている	545	79.7	628	86.9
	2. 知らない	125	18.3	79	10.9
	3. 未回答(無効回答含む)	14	2.0	16	2.2
小学2年 生の子ども の保護者	1. 知っている	534	73.5	648	89.1
	2. 知らない	166	22.8	68	9.4
	3. 未回答(無効回答含む)	27	3.7	11	1.5
小学5年 生の子ども の保護者	1. 知っている	409	74.4	590	90.1
	2. 知らない	125	22.7	55	8.4
	3. 未回答(無効回答含む)	16	2.9	10	1.5
中学2年 生の子ども の保護者	1. 知っている	322	70.6	446	84.8
	2. 知らない	126	27.6	75	14.3
	3. 未回答(無効回答含む)	8	1.8	5	1.0
高校2年 生の年齢 の子ども の保護者	1. 知っている	206	66.0	381	82.6
	2. 知らない	97	31.1	74	16.1
	3. 未回答(無効回答含む)	9	2.9	6	1.3

総合教育センター

		R5(今回)		H29(前回)	
		単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
未就学児 の保護者	1. 知っている	272	39.8	161	22.3
	<u>2. 知らない</u>	390	<u>57.0</u>	525	72.6
	3. 未回答(無効回答含む)	22	3.2	37	5.1
小学2年 生の子ども の保護者	1. 知っている	237	32.6	165	22.7
	<u>2. 知らない</u>	464	<u>63.8</u>	528	72.6
	3. 未回答(無効回答含む)	26	3.6	34	4.7
小学5年 生の子ども の保護者	1. 知っている	213	38.7	162	24.7
	<u>2. 知らない</u>	319	<u>58.0</u>	470	71.8
	3. 未回答(無効回答含む)	18	3.3	23	3.5
中学2年 生の子ども の保護者	1. 知っている	190	41.7	155	29.5
	<u>2. 知らない</u>	254	<u>55.7</u>	357	67.9
	3. 未回答(無効回答含む)	12	2.6	14	2.7
高校2年 生の年齢 の子ども の保護者	1. 知っている	116	37.2	107	23.2
	<u>2. 知らない</u>	184	<u>59.0</u>	338	73.3
	3. 未回答(無効回答含む)	12	3.8	16	3.5

保健所、保健センター

		R5(今回)		H29(前回)	
		単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
未就学児 の保護者	1. 知っている	599	87.6	637	88.1
	2. 知らない	68	9.9	67	9.3
	3. 未回答(無効回答含む)	17	2.5	19	2.6
小学2年 生の子ど もの保護 者	1. 知っている	614	84.5	639	87.9
	2. 知らない	86	11.8	75	10.3
	3. 未回答(無効回答含む)	27	3.7	13	1.8
小学5年 生の子ど もの保護 者	1. 知っている	481	87.5	562	85.8
	2. 知らない	49	8.9	79	12.1
	3. 未回答(無効回答含む)	20	3.6	14	2.1
中学2年 生の子ど もの保護 者	1. 知っている	391	85.7	438	83.3
	2. 知らない	58	12.7	82	15.6
	3. 未回答(無効回答含む)	7	1.5	6	1.1
高校2年 生の年齢 の子ども の保護者	1. 知っている	261	83.7	387	83.9
	2. 知らない	43	13.8	67	14.5
	3. 未回答(無効回答含む)	8	2.6	7	1.5

くらしのまるごと相談窓口

		R5(今回)		H29(前回)	
		単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
未就学児 の保護者	1. 知っている	177	25.9	—	—
	<u>2. 知らない</u>	490	<u>71.6</u>	—	—
	3. 未回答(無効回答含む)	17	2.5	—	—
小学2年 生の子ど もの保護 者	1. 知っている	150	20.6	—	—
	<u>2. 知らない</u>	552	<u>75.9</u>	—	—
	3. 未回答(無効回答含む)	25	3.4	—	—
小学5年 生の子ど もの保護 者	1. 知っている	156	28.4	—	—
	<u>2. 知らない</u>	384	<u>69.8</u>	—	—
	3. 未回答(無効回答含む)	10	1.8	—	—
中学2年 生の子ど もの保護 者	1. 知っている	133	29.2	—	—
	<u>2. 知らない</u>	315	<u>69.1</u>	—	—
	3. 未回答(無効回答含む)	8	1.8	—	—
高校2年 生の年齢 の子ども の保護者	1. 知っている	106	34.0	—	—
	<u>2. 知らない</u>	196	<u>62.8</u>	—	—
	3. 未回答(無効回答含む)	10	3.2	—	—

○ 子どもの悩み相談について

中学2年生及び高校2年生の年齢の子どもを対象とした悩みや不安をどのようなところに相談するかという設問においては、「同じ悩みを持つ人と出会える」ところ、「自分の名前を知られずに相談できる」ところと回答した子どもの割合が伸びる結果となりました。

この結果を踏まえ、SNSの活用やピアサポートなどニーズに応じた相談方法を検討する必要があります。

【参考】調査結果

問 あなたは、どのようなところであれば、現在の悩みや不安について相談しようと思いますか。[あてはまるものすべて選ぶ]

中学2年生の子ども

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. 専門家がアドバイスをくれる	77	17.8	70	14.2
2. 同じ悩みを持つ人と出会える	138	31.9	110	22.4
3. 自分の名前を知られずに相談できる	112	25.9	89	18.1
4. 自宅に相談に乗ってくれる人が来てくれる	11	2.5	17	3.5
5. いろいろな悩みをまとめて聞いてくれる	68	15.7	69	14.0
6. 自分のペースでゆっくりと段階的な支援をしてくれる	80	18.5	94	19.1
7. 相談がなくても気軽に行くことができるフリースペースがある	65	15.0	77	15.7
8. その他	6	1.4	16	3.3
9. 相談しようと思わない	146	33.8	222	45.1
10. 未回答	12	2.8	7	1.4

高校2年生の年齢の子ども

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. 専門家がアドバイスをくれる	73	23.0	83	19.6
<u>2. 同じ悩みを持つ人と出会える</u>	87	<u>27.4</u>	96	<u>22.7</u>
<u>3. 自分の名前を知られずに相談できる</u>	96	<u>30.2</u>	89	<u>21.0</u>
4. 自宅に相談に乗ってくれる人が来てくれる	17	5.3	8	1.9
5. いろいろな悩みをまとめて聞いてくれる	54	17.0	61	14.4
6. 自分のペースでゆっくりと段階的な支援をしてくれる	72	22.6	62	14.7
7. 相談がなくても気軽に行くことができるフリースペースがある	56	17.6	48	11.3
8. その他	4	1.3	5	1.2
9. 相談しようと思わない	102	32.1	188	44.4
10. 未回答	7	2.2	18	4.3

(2) 児童虐待

○ 身体的虐待について

児童虐待とは、保護者が子どもの人権を著しく侵害し、その心身を傷つけ、健やかな成長・発達を損なう行為と定義されています。保護者調査の「しつけの一環として子どもの顔や体を叩くことがある」という設問において、「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」という回答は減少傾向にあります。しかし、小学生以下の子どもを持つ保護者を中心に10%前後は、「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」と回答していることから、適切な状況把握や必要に応じた支援を行う必要があります。

【参考】調査結果

問 しつけの一環として子どもの顔や体を叩くことがある。[各項目につき、ひとつずつ回答]

未就学児(5～6歳)の保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>あてはまる</u>	14	<u>2.0</u>	55	7.6
2. <u>どちらかというにあてはまる</u>	58	<u>8.5</u>	165	22.8
3. どちらかというにあてはまらない	154	22.5	174	24.1
4. あてはまらない	456	66.7	326	45.1
5. 未回答	2	0.3	3	0.4
合計	684	100.0	723	100.0

小学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>あてはまる</u>	15	<u>2.1</u>	38	5.2
2. <u>どちらかというにあてはまる</u>	96	<u>13.2</u>	181	24.9
3. どちらかというにあてはまらない	158	21.7	175	24.1
4. あてはまらない	454	62.4	329	45.3
5. 未回答	4	0.6	4	0.6
合計	727	100.0	727	100.0

小学5年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>あてはまる</u>	7	<u>1.3</u>	30	4.6
2. <u>どちらかというにあてはまる</u>	53	<u>9.6</u>	111	16.9
3. どちらかというにあてはまらない	120	21.8	155	23.7
4. あてはまらない	367	66.7	354	54.0
5. 無効回答	1	0.2	0	0.0
6. 未回答	2	0.4	5	0.8
合計	550	100.0	655	100.0

中学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. あてはまる	8	1.8	19	3.6
2. どちらかというにあてはまる	25	5.5	63	12.0
3. どちらかというにあてはまらない	80	17.5	96	18.3
4. あてはまらない	343	75.2	347	66.0
5. 未回答	0	0.0	1	0.2
合計	456	100.0	526	100.0

高校2年生の年齢の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. あてはまる	0	0.0	3	0.7
2. どちらかというにあてはまる	14	4.5	33	7.2
3. どちらかというにあてはまらない	48	15.4	76	16.5
4. あてはまらない	248	79.5	346	75.1
5. 未回答	2	0.6	3	0.7
合計	312	100.0	461	100.0

○ 心理的虐待について

言葉による脅しや無視などの行為は、子どもに著しい心理的外傷を与えることとなります。「子どもの心を傷つけるようなことを言うことがある」という設問に対し、「あてはまる」や「どちらかというにあてはまる」は減少傾向にありますが、依然として各年代とも3割程度いる結果となりました。

また、「子どものことを無視することがある」という設問については、「あてはまらない」、「どちらかというにあてはまらない」と回答した保護者が大多数を占めるものの「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」と回答した保護者も5%前後いる結果となりました。

この結果を踏まえ、子どもへのケアとともに、保護者の養育支援等を検討する必要があります。

【参考】調査結果

問 子どもの心を傷つけるようなことを言うことがある。[各項目につき、ひとつずつ回答]

未就学児(5～6歳)の保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>あてはまる</u>	31	<u>4.5</u>	52	7.2
2. <u>どちらかというにあてはまる</u>	162	<u>23.7</u>	233	32.2
3. どちらかというにあてはまらない	276	40.4	294	40.7
4. あてはまらない	214	31.3	140	19.4
5. 未回答	1	0.1	4	0.6
合計	684	100.0	723	100.0

小学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>あてはまる</u>	32	<u>4.4</u>	62	8.5
2. <u>どちらかというにあてはまる</u>	200	<u>27.5</u>	244	33.6
3. どちらかというにあてはまらない	315	43.3	302	41.5
4. あてはまらない	177	24.3	114	15.7
5. 未回答	3	0.4	5	0.7
合計	727	100.0	727	100.0

小学5年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	24	<u>4.4</u>	42	6.4
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	158	<u>28.7</u>	220	33.6
3. どちらかというにあてはまらない	218	39.6	271	41.4
4. あてはまらない	148	26.9	118	18.0
5. 未回答	2	0.4	4	0.6
合計	550	100.0	655	100.0

中学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	16	<u>3.5</u>	31	5.9
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	111	<u>24.3</u>	166	31.6
3. どちらかというにあてはまらない	197	43.2	214	40.7
4. あてはまらない	132	28.9	111	21.1
5. 未回答	0	0.0	4	0.8
合計	456	100.0	526	100

高校2年生の年齢の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	11	<u>3.5</u>	12	2.6
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	70	<u>22.4</u>	117	25.4
3. どちらかというにあてはまらない	127	40.7	197	42.7
4. あてはまらない	103	33.0	131	28.4
5. 未回答	1	0.3	4	0.9
合計	312	100.0	461	100.0

問 子どものことを無視することがある。[各項目につき、ひとつずつ回答]
未就学児(5～6歳)の保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>あてはまる</u>	11	<u>1.6</u>	11	1.5
2. <u>どちらかというにあてはまる</u>	35	<u>5.1</u>	67	9.3
3. どちらかというにあてはまらない	196	28.7	234	32.4
4. あてはまらない	441	64.5	407	56.3
5. 未回答	1	0.1	4	0.6
合計	684	100.0	723	100.0

小学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>あてはまる</u>	11	<u>1.5</u>	17	2.3
2. <u>どちらかというにあてはまる</u>	47	<u>6.5</u>	66	9.1
3. どちらかというにあてはまらない	208	28.6	232	31.9
4. あてはまらない	459	63.1	405	55.7
5. 未回答	2	0.3	7	1.0
合計	727	100.0	727	100.0

小学5年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>あてはまる</u>	5	<u>0.9</u>	9	1.4
2. <u>どちらかというにあてはまる</u>	25	<u>4.5</u>	40	6.1
3. どちらかというにあてはまらない	143	26.0	204	31.1
4. あてはまらない	374	68.0	400	61.1
5. 未回答	3	0.5	2	0.3
合計	550	100.0	655	100.0

中学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	5	<u>1.1</u>	9	1.7
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	14	<u>3.1</u>	25	4.8
3. どちらかというにあてはまらない	110	24.1	141	26.8
4. あてはまらない	327	71.7	350	66.5
5. 未回答	0	0.0	1	0.2
合計	456	100.0	526	100.0

高校2年生の年齢の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	1	<u>0.3</u>	3	0.7
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	19	<u>6.1</u>	20	4.3
3. どちらかというにあてはまらない	64	20.5	86	18.7
4. あてはまらない	227	72.8	347	75.3
5. 未回答	1	0.3	5	1.1
合計	312	100.0	461	100.0

○ ネグレクトについて

子どものお世話を行わないことをはじめとした、保護者としての監護を著しく怠ることをネグレクトと言います。「子どもの食事や看病などの世話が億劫で、やらないことがある」という設問では、「あてはまる」、「どちらからという」とあてはまる」と回答した保護者は増加傾向にあります。

この結果を踏まえ、子どもへのケアとともに、保護者の養育支援等を検討する必要があります。

【参考】調査結果

問 子どもの食事や看病などの世話が億劫で、やらないことがある。[各項目につき、ひとつずつ回答]

未就学児(5～6歳)の保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	8	<u>1.2</u>	9	<u>1.2</u>
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	28	<u>4.1</u>	19	<u>2.6</u>
3. どちらかというにあてはまらない	146	21.3	130	18.0
4. あてはまらない	498	72.8	559	77.3
5. 未回答	4	0.6	6	0.8
合計	684	100.0	723	100.0

小学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	7	<u>1.0</u>	6	<u>0.8</u>
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	37	<u>5.1</u>	14	<u>1.9</u>
3. どちらかというにあてはまらない	161	22.1	136	18.7
4. あてはまらない	520	71.5	564	77.6
5. 未回答	2	0.3	7	1.0
合計	727	100.0	727	100.0

小学5年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	4	<u>0.7</u>	9	<u>1.4</u>
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	18	<u>3.3</u>	7	<u>1.1</u>
3. どちらかというにあてはまらない	112	20.4	146	22.3
4. あてはまらない	412	74.9	491	75.0
5. 未回答	4	0.7	2	0.3
合計	550	100.0	655	100.0

中学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	3	<u>0.7</u>	2	<u>0.4</u>
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	24	<u>5.3</u>	13	<u>2.5</u>
3. どちらかというにあてはまらない	104	22.8	113	21.5
4. あてはまらない	323	70.8	397	75.5
5. 未回答	2	0.4	1	0.2
合計	456	100.0	526	100.0

高校2年生の年齢の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	1	<u>0.3</u>	2	<u>0.4</u>
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	13	<u>4.2</u>	22	<u>4.8</u>
3. どちらかというにあてはまらない	66	21.2	103	22.3
4. あてはまらない	229	73.4	330	71.6
5. 未回答	3	1.0	4	0.9
合計	312	100.0	461	100.0

(3)自己肯定感

○ **子どもの自己肯定感(保護者調査)**

「子どもの意思や自主性を尊重している」という設問について、全年代で「あてはまる」が増加傾向にあります。

また、「子どもの考えややろうとすることなどを否定することがある」という設問では、「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」と回答は減少傾向にあるものの、30%程度の割合を占めています。

この結果を踏まえ、自己肯定感を高める子育ての周知・啓発や養育相談を実施していく必要があります。

【参考】調査結果

問 子どもの意思や自主性を尊重している。[各項目につき、ひとつずつ回答]
未就学児(5～6歳)の保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	205	<u>30.0</u>	184	<u>25.4</u>
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	438	<u>64.0</u>	466	<u>64.5</u>
3. どちらかというにあてはまらない	40	5.8	70	9.7
4. あてはまらない	0	0.0	0	0.0
5. 未回答	1	0.1	3	0.4
合計	684	100.0	723	100.0

小学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	220	<u>30.3</u>	176	<u>24.2</u>
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	464	<u>63.8</u>	491	<u>67.5</u>
3. どちらかというにあてはまらない	42	5.8	54	7.4
4. あてはまらない	0	0.0	1	0.1
5. 未回答	1	0.1	5	0.7
合計	727	100.0	727	100.0

小学5年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	173	<u>31.5</u>	169	<u>25.8</u>
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	345	<u>62.7</u>	427	<u>65.2</u>
3. どちらかというにあてはまらない	27	4.9	54	8.2
4. あてはまらない	2	0.4	2	0.3
5. 未回答	3	0.5	3	0.5
合計	550	100.0	655	100.0

中学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	151	<u>33.1</u>	108	<u>20.5</u>
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	280	<u>61.4</u>	362	<u>68.8</u>
3. どちらかというにあてはまらない	23	5.0	54	10.3
4. あてはまらない	1	0.2	1	0.2
5. 未回答	1	0.2	1	0.2
合計	456	100.0	526	100.0

高校2年生の年齢の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	111	<u>35.6</u>	153	<u>33.2</u>
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	182	<u>58.3</u>	282	<u>61.2</u>
3. どちらかというにあてはまらない	16	5.1	22	4.8
4. あてはまらない	2	0.6	1	0.2
5. 未回答	1	0.3	3	0.7
合計	312	100.0	461	100.0

【参考】調査結果

問 子どもの考えややろうとすることなどを否定することがある[各項目につき、ひとつずつ回答]

未就学児(5～6歳)の保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>あてはまる</u>	26	<u>3.8</u>	28	3.9
2. <u>どちらかというにあてはまる</u>	170	<u>24.9</u>	251	34.7
3. <u>どちらかというにあてはまらない</u>	314	45.9	298	41.2
4. あてはまらない	172	25.1	141	19.5
5. 未回答	2	0.3	5	0.7
合計	684	100.0	723	100.0

小学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>あてはまる</u>	22	<u>3.0</u>	37	5.1
2. <u>どちらかというにあてはまる</u>	192	<u>26.4</u>	241	33.1
3. <u>どちらかというにあてはまらない</u>	329	45.3	295	40.6
4. あてはまらない	181	24.9	148	20.4
5. 未回答	3	0.4	6	0.8
合計	727	100.0	727	100.0

小学5年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>あてはまる</u>	15	<u>2.7</u>	24	3.7
2. <u>どちらかというにあてはまる</u>	160	<u>29.1</u>	201	30.7
3. <u>どちらかというにあてはまらない</u>	253	46.0	306	46.7
4. あてはまらない	119	21.6	121	18.5
5. 未回答	3	0.5	3	0.5
合計	550	100.0	655	100.0

中学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	10	<u>2.2</u>	28	5.3
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	121	<u>26.5</u>	148	28.1
3. どちらかというにあてはまらない	213	46.7	261	49.6
4. あてはまらない	112	24.6	86	16.3
5. 未回答	0	0.0	3	0.6
合計	456	100.0	526	100.0

高校2年生の年齢の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. あてはまる</u>	5	<u>1.6</u>	10	2.2
<u>2. どちらかというにあてはまる</u>	76	<u>24.4</u>	116	25.2
3. どちらかというにあてはまらない	146	46.8	206	44.7
4. あてはまらない	83	26.6	122	26.5
5. 未回答	2	0.6	7	1.5
合計	312	100.0	461	100.0

○ 子どもの自己肯定感(子ども調査)

子どもへの設問の「自分にはよいところがある」では、全年代で「とてもそう思う」、「そう思う」の割合が増加しており、小学5年生 80.2%、中学2年生 75.5%、高校2年生の年齢の子ども 79.6%という結果となりました。

この結果を踏まえ、子どもの健やかな成長のため、自己肯定感を育む支援を検討する必要があります。

【参考】調査結果

問 自分にはよいところがある。[各項目につき、ひとつずつ回答]

小学5年生の子ども

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>とてもそう思う</u>	202	<u>39.9</u>	218	<u>33.9</u>
2. <u>そう思う</u>	204	<u>40.3</u>	293	45.5
3. あまりそう思わない	76	15.0	88	13.7
4. そう思わない	15	3.0	31	4.8
5. 未回答	9	1.8	14	2.2
合計	506	100.0	644	100.0

中学2年生の子ども

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>とてもそう思う</u>	135	<u>31.3</u>	125	<u>25.4</u>
2. <u>そう思う</u>	191	<u>44.2</u>	226	45.9
3. あまりそう思わない	68	15.7	104	21.1
4. そう思わない	23	5.3	31	6.3
5. 未回答	15	3.5	6	1.2
合計	432	100.0	492	100.0

高校2年生の年齢の子ども

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
<u>1. とてもそう思う</u>	108	<u>34.0</u>	97	<u>22.9</u>
<u>2. そう思う</u>	145	<u>45.6</u>	187	44.2
3. あまりそう思わない	45	14.2	93	22.0
4. そう思わない	15	4.7	22	5.2
5. 未回答	5	1.6	24	5.7
合計	318	100.0	423	100.0

(4)子どもの居場所

○ 居場所ニーズ(保護者調査)

「放課後や休日に子どもが過ごす場所として、利用させてみたいと思うのは、どのようなものか」という設問に対する回答の上位3項目については、前回調査と同様、小学2年生及び小学5年生の子どもの保護者の回答では「自由に集うことができ、運動や工作などの活動ができる場所」、「同年代の子どもが集う場所」、「様々な年齢の子どもが集う場所」が占め、中学2年生及び高校2年生の年齢の子どもの保護者の回答では、「体を動かしたり、趣味の活動ができる場所」、「家で勉強できないときに、静かに勉強ができる場所」、「大学生など、年上の人が宿題や勉強を見てくれる場所」を占めました。

【参考】調査結果

問 放課後や休日に子どもが過ごす場所として、あなたがお子さんに利用させて
みたいと思うものは、どのようなものですか。[あてはまるものすべて選択]

小学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>様々な年齢の子どもが集う場所</u>	392	<u>53.9</u>	401	<u>55.2</u>
2. <u>同年代の子どもが集う場所</u>	424	<u>58.3</u>	398	<u>54.7</u>
3. 家族が家にいないとき、低額・無料で夕食を他の人と食べることができる場所	105	14.4	121	16.6
4. 大学生など、年上の人が宿題や勉強を見てくれる場所	317	43.6	332	45.7
5. <u>自由に集うことができ、運動や工作などの活動ができる場所</u>	558	<u>76.8</u>	591	<u>81.3</u>
6. 子どもと保護者が一緒に過ごせる場所	229	31.5	229	31.5
7. その他	20	2.8	21	2.9
8. 利用させてみたいと思わない	9	1.2	15	2.1
9. わからない	21	2.9	14	1.9
10. 未回答	5	0.7	3	0.4

小学5年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>様々な年齢の子どもが集う場所</u>	261	<u>47.5</u>	305	<u>46.6</u>
2. <u>同年代の子どもが集う場所</u>	295	<u>53.6</u>	297	<u>45.3</u>
3. 家族が家にいないとき、低額・無料で夕食を他の人と食べることができる場所	89	16.2	90	13.7
4. 大学生など、年上の人が宿題や勉強を見てくれる場所	259	47.1	290	44.3
5. <u>自由に集うことができ、運動や工作などの活動ができる場所</u>	366	<u>66.5</u>	464	<u>70.8</u>
6. 子どもと保護者が一緒に過ごせる場所	134	24.4	142	21.7
7. その他	10	1.8	15	2.3
8. 利用させてみたいと思わない	32	5.8	26	4.0
9. わからない	30	5.5	31	4.7
10. 未回答	4	0.7	6	0.9

中学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. 様々な年齢の子どもが集う場所	129	28.3	144	27.4
2. 同年代の子どもが集う場所	173	37.9	134	25.5
3. 家族が家にいないとき、低額・無料で夕食を他の人と食べることができる場所	67	14.7	60	11.4
4. <u>大学生など、年上の人が宿題や勉強を見てくれる場所</u>	221	<u>48.5</u>	257	<u>48.9</u>
5. <u>体を動かしたり、趣味の活動ができる場所</u>	315	<u>69.1</u>	329	<u>62.5</u>
6. 子どもが直接悩みや不安について相談できるところ	155	34.0	176	33.5
7. <u>家で勉強できないときに、静かに勉強ができる場所</u>	219	<u>48.0</u>	220	<u>41.8</u>
8. その他	6	1.3	5	1.0
9. 利用させてみたいと思わない	15	3.3	25	4.8
10. わからない	31	6.8	31	5.9
11. 未回答	4	0.9	1	0.2

高校2年生の年齢の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. 様々な年齢の子どもが集う場所	68	21.8	92	20.0
2. 同年代の子どもが集う場所	81	26.0	84	18.2
3. 家族が家にいないとき、低額・無料で夕食を他の人と食べることができる場所	35	11.2	57	12.4
4. <u>大学生など、年上の人が宿題や勉強を見てくれる場所</u>	113	<u>36.2</u>	184	<u>39.9</u>
5. <u>体を動かしたり、趣味の活動ができる場所</u>	169	<u>54.2</u>	255	<u>55.3</u>
6. 子どもが直接悩みや不安について相談できるところ	74	23.7	112	24.3
7. <u>家で勉強できないときに、静かに勉強ができる場所</u>	150	<u>48.1</u>	188	<u>40.8</u>
8. その他	1	0.3	7	1.5
9. 利用させてみたいと思わない	25	8.0	48	10.4
10. わからない	26	8.3	43	9.3
11. 未回答	6	1.9	10	2.2

○ 居場所ニーズ(子ども調査)

居心地のよさを感じる場所があるかという設問では、「ある」と回答した子どもが90%を超えている一方、5%前後の子どもは「ない」と回答しています。

放課後や休日に行ってみたい場所としては、小学5年生の子どもは、「運動や工作などの活動ができる場所(48.2%)」、中学2年生の子どもは、「運動や工作などの活動ができる場所(46.1%)」、高校2年生の年齢の子どもは、「家で勉強できないときに、静かに勉強ができる場所(44.0%)」が最も多い結果となりました。

調査結果では、子どもが行ってみたい場所と行ってみたいと思わない場所が同年代の中でも意見が分かれています。子どもの居場所づくりにおいては、遊んだり、何もしなかったり、好きなことをして過ごす場所や時間、人との関係性など含め、「居場所」になり得るものであり、その場を居場所と感ずるかどうかは、子ども本人が決めるものであることから、様々な居場所に対するニーズに対して、オープンな環境で支援するのか、クローズド環境で支援するのかも含め、検討する必要があります。

【参考】調査結果

問 あなたにとってホッとできたり、居心地のよさを感じる場所がありますか。

[ひとつ選ぶ]

中学2年生の子ども

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. ある	397	91.9	464	94.3
<u>2. ない</u>	27	<u>6.3</u>	24	4.9
3. 未回答	8	1.9	4	0.8
合計	432	100.0	492	100.0

高校2年生の年齢の子ども

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. ある	302	95.0	399	94.3
<u>2. ない</u>	13	<u>4.1</u>	21	5.0
3. 未回答	3	0.9	3	0.7
合計	318	100.0	423	100.0

【参考】調査結果

問 次の場所に放課後や休みの日に行ってみたいと思いますか。[ひとつ選ぶ]

年齢に関わりなく子どもが集まる場所(いろいろな年の子どもがあつまる場所)

		R5(今回)		H29(前回)	
		単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
小学5年生の子ども	1. 行ってみたい	78	15.4	85	13.2
	2. 興味がある	149	29.4	192	29.8
	3. 行きたいと思わない	219	43.3	290	45.0
	4. わからない	52	10.3	57	8.9
	5. 未回答	8	1.6	20	3.1
中学2年生の子ども	1. 使ってみたい	53	12.3	30	6.1
	2. 興味がある	96	22.2	103	20.9
	3. 使いたいと思わない	214	49.5	286	58.1
	4. わからない	53	12.3	67	13.6
	5. 未回答	16	3.7	6	1.2
高校2年生の年齢の子ども	1. 使ってみたい	34	10.7	29	6.9
	2. 興味がある	84	26.4	83	19.6
	3. 使いたいと思わない	158	49.7	251	59.3
	4. わからない	40	12.6	47	11.1
	5. 未回答	2	0.6	13	3.1

同年代が集まって気兼ねなく居られる場所(年の近い子どもがあつまる場所)

		R5(今回)		H29(前回)	
		単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
小学5年生の子ども	1. 行ってみたい	184	36.4	219	34.0
	2. 興味がある	172	34.0	229	35.6
	3. 行きたいと思わない	107	21.1	138	21.4
	4. わからない	33	6.5	38	5.9
	5. 無効回答	1	0.2	20	3.1
	6. 未回答	9	1.8	—	—
中学2年生の子ども	1. 使ってみたい	118	27.3	96	19.5
	2. 興味がある	148	34.3	171	34.8
	3. 使いたいと思わない	113	26.2	179	36.4
	4. わからない	36	8.3	42	8.5
	5. 未回答	17	3.9	4	0.8
高校2年生の年齢の子ども	1. 使ってみたい	65	20.4	73	17.3
	2. 興味がある	113	35.5	138	32.6
	3. 使いたいと思わない	103	32.4	164	38.8
	4. わからない	32	10.1	37	8.7
	5. 未回答	5	1.6	11	2.6

家の人がないとき、低額・無料で夕食を他の人と食べることができる場所
 (小学5年生 おうちの人がないときに夜ごはんをみんなで食べられる場所)

		R5(今回)		H29(前回)	
		単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
小学5年生の子ども	1. 行ってみたい	136	26.9	184	28.6
	2. 興味がある	139	27.5	170	26.4
	3. 行きたいと思わない	167	33.0	215	33.4
	4. わからない	55	10.9	57	8.9
	5. 無効回答	1	0.2	18	2.8
	6. 未回答	8	1.6	—	—
中学2年生の子ども	1. 使ってみたい	85	19.7	108	22.0
	2. 興味がある	111	25.7	103	20.9
	3. 使いたいと思わない	173	40.0	224	45.5
	4. わからない	46	10.6	53	10.8
	5. 未回答	17	3.9	4	0.8
高校2年生の年齢の子ども	1. 使ってみたい	69	21.7	90	21.3
	2. 興味がある	81	25.5	110	26.0
	3. 使いたいと思わない	133	41.8	176	41.6
	4. わからない	30	9.4	35	8.3
	5. 未回答	5	1.6	12	2.8

大学生など、年上の人が宿題や勉強をみてる場所
(年上の人が宿題や勉強をみてる場所)

		R5(今回)		H29(前回)	
		単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
小学5年生の子ども	1. 行ってみたい	89	17.6	113	17.5
	2. 興味がある	145	28.7	168	26.1
	3. 行きたいと思わない	220	43.5	297	46.1
	4. わからない	46	9.1	48	7.5
	5. 未回答	6	1.2	18	2.8
中学2年生の子ども	1. 使ってみたい	67	15.5	73	14.8
	2. 興味がある	127	29.4	144	29.3
	3. 使いたいと思わない	178	41.2	217	44.1
	4. わからない	44	10.2	54	11.0
	5. 未回答	16	3.7	4	0.8
高校2年生の年齢の子ども	1. 使ってみたい	73	23.0	83	19.6
	2. 興味がある	104	32.7	127	30.0
	3. 使いたいと思わない	104	32.7	160	37.8
	4. わからない	35	11.0	42	9.9
	5. 未回答	2	0.6	11	2.6

体を動かしたり、趣味の活動ができる場所(運動や工作などの活動ができる場所)

		R5(今回)		H29(前回)	
		単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
小学5年生の子ども	<u>1. 行ってみたい</u>	244	48.2	331	51.4
	2. 興味がある	154	30.4	205	31.8
	3. 行きたいと思わない	79	15.6	73	11.3
	4. わからない	22	4.3	23	3.6
	5. 未回答	7	1.4	12	1.9
中学2年生の子ども	<u>1. 使ってみたい</u>	199	46.1	259	52.6
	2. 興味がある	149	34.5	142	28.9
	3. 使いたいと思わない	59	13.7	69	14.0
	4. わからない	14	3.2	17	3.5
	5. 未回答	11	2.5	5	1.0
高校2年生の年齢の子ども	1. 使ってみたい	132	41.5	177	41.8
	2. 興味がある	109	34.3	136	32.2
	3. 使いたいと思わない	54	17.0	71	16.8
	4. わからない	18	5.7	28	6.6
	5. 未回答	5	1.6	11	2.6

悩みや不安について相談できるところ

		R5(今回)		H29(前回)	
		単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
中学2年生の子ども	1. 使ってみたい	61	14.1	48	9.8
	2. 興味がある	111	25.7	112	22.8
	3. 使いたいと思わない	177	41.0	245	49.8
	4. わからない	66	15.3	80	16.3
	5. 未回答	17	3.9	7	1.4
高校2年生の年齢の子ども	1. 使ってみたい	43	13.5	48	11.3
	2. 興味がある	111	34.9	99	23.4
	3. 使いたいと思わない	117	36.8	201	47.5
	4. わからない	43	13.5	64	15.1
	5. 未回答	4	1.3	11	2.6

家で勉強できないときに、静かに勉強ができる場所

		R5(今回)		H29(前回)	
		単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
中学2年生の子ども	1. 使ってみたい	152	35.2	156	31.7
	2. 興味がある	121	28.0	155	31.5
	3. 使いたいと思わない	107	24.8	130	26.4
	4. わからない	36	8.3	46	9.3
	5. 未回答	16	3.7	5	1.0
高校2年生の年齢の子ども	<u>1. 使ってみたい</u>	140	<u>44.0</u>	173	40.9
	2. 興味がある	94	29.6	105	24.8
	3. 使いたいと思わない	53	16.7	102	24.1
	4. わからない	26	8.2	32	7.6
	5. 未回答	5	1.6	11	2.6

(5) ヤングケアラー

○ ヤングケアラー支援

ヤングケアラーとは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを、日常的に行っている子どものことです。子どもが負担する過度な家事等は現在だけでなく、将来にわたって影響をもたらす可能性があります。保護者に対する「子どもに家族などの世話や食事を作るよう、お願いしたことがある」という設問において、「あてはまる」、「どちらかというにあてはまる」の回答は、子どもの年齢が上がるほど、割合が増える傾向が見受けられますが、未就学児や小学2年生についても10%以上を占めています。

この結果を踏まえ、ヤングケアラーへの支援体制整備や支援策について検討する必要があります。

【参考】調査結果

問 子どもに家族などの世話や食事を作るよう、お願いしたことがある。[ひとつ選ぶ]

未就学児(5～6歳)の保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>あてはまる</u>	27	<u>3.9</u>	—	—
2. <u>どちらかというにあてはまる</u>	62	<u>9.1</u>	—	—
3. どちらかというにあてはまらない	97	14.2	—	—
4. あてはまらない	496	72.5	—	—
5. 無効回答	1	0.1	—	—
6. 未回答	1	0.1	—	—
合計	684	100.0	—	—

小学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>あてはまる</u>	32	<u>4.4</u>	—	—
2. <u>どちらかというにあてはまる</u>	94	<u>12.9</u>	—	—
3. どちらかというにあてはまらない	110	15.1	—	—
4. あてはまらない	489	67.3	—	—
5. 未回答	2	0.3	—	—
合計	727	100.0	—	—

小学5年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. あてはまる	45	8.2	—	—
2. どちらかというにあてはまる	82	14.9	—	—
3. どちらかというにあてはまらない	106	19.3	—	—
4. あてはまらない	316	57.5	—	—
5. 未回答	1	0.2	—	—
合計	550	100.0	—	—

中学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. あてはまる	40	8.8	—	—
2. どちらかというにあてはまる	86	18.9	—	—
3. どちらかというにあてはまらない	111	24.3	—	—
4. あてはまらない	219	48.0	—	—
5. 未回答	0	0.0	—	—
合計	456	100.0	—	—

高校2年生の年齢の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. あてはまる	29	9.3	—	—
2. どちらかというにあてはまる	66	21.2	—	—
3. どちらかというにあてはまらない	69	22.1	—	—
4. あてはまらない	147	47.1	—	—
5. 未回答	1	0.3	—	—
合計	312	100.0	—	—

(6)支援ニーズ

○ **子どもが暮らしやすく、よりよい生活が送れる支援ニーズ**

支援ニーズに関する調査では、全ての保護者の回答において、「進学のための経済的支援」が最も多くの回答となり、経済的な不安が見受けられる結果となりました。また、子どもの年齢が上がるにつれ、「学校の授業についていくための補習授業」の支援ニーズの回答も増加傾向にあります。

この結果を踏まえ、更なる分析を進め、ライフステージに応じた支援ニーズの検討を行う必要があります。

【参考】調査結果

問 あなたは、お子さんが暮らしやすく、よりよい生活が送れるようになるために必要な取組はどのようなものだと思いますか。[あてはまるものすべて選択]
未就学児(5～6歳)の保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>学校の授業についていくための補習授業</u>	232	<u>33.9</u>	259	35.8
2. <u>進学のための経済的支援</u>	386	<u>56.4</u>	371	51.3
3. 不安や悩みを気軽に相談できる窓口の整備	217	31.7	229	31.7
4. 他者とうまくつきあっていくための手助け	175	25.6	137	18.9
5. 文化芸術、自然等を体験する機会の提供	360	52.6	356	49.2
6. 保護者の就労支援	121	17.7	151	20.9
7. 将来の子どもの就労支援	196	28.7	183	25.3
8. 子どもの養育に関する助言などの支援	148	21.6	115	15.9
9. 非行や犯罪を防ぐためのまちづくり	310	45.3	387	53.5
10. その他	26	3.8	30	4.1
11. 行政が支援する必要はない(家庭や個人の問題である)	8	1.2	8	1.1
12. わからない	28	4.1	22	3.0
13. 未回答	5	0.7	14	1.9

小学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>学校の授業についていくための補習授業</u>	292	<u>40.2</u>	297	40.9
2. <u>進学のための経済的支援</u>	411	<u>56.5</u>	380	52.3
3. 不安や悩みを気軽に相談できる窓口の整備	201	27.6	225	30.9
4. 他者とうまくつきあっていくための手助け	164	22.6	133	18.3
5. 文化芸術、自然等を体験する機会の提供	379	52.1	325	44.7
6. 保護者の就労支援	123	16.9	135	18.6
7. 将来の子どもの就労支援	180	24.8	186	25.6
8. 子どもの養育に関する助言などの支援	125	17.2	117	16.1
9. 非行や犯罪を防ぐためのまちづくり	316	43.5	372	51.2
10. その他	33	4.5	26	3.6
11. 行政が支援する必要はない(家庭や個人の問題である)	9	1.2	7	1.0
12. わからない	31	4.3	21	2.9
13. 未回答	7	1.0	12	1.7

小学5年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>学校の授業についていくための補習授業</u>	236	<u>42.9</u>	268	40.9
2. <u>進学のための経済的支援</u>	297	<u>54.0</u>	316	48.2
3. 不安や悩みを気軽に相談できる窓口の整備	133	24.2	217	33.1
4. 他者とうまくつきあっていくための手助け	116	21.1	110	16.8
5. 文化芸術、自然等を体験する機会の提供	257	46.7	299	45.6
6. 保護者の就労支援	67	12.2	90	13.7
7. 将来の子どもの就労支援	158	28.7	169	25.8
8. 子どもの養育に関する助言などの支援	80	14.5	93	14.2
9. 非行や犯罪を防ぐためのまちづくり	204	37.1	290	44.3
10. その他	14	2.5	14	2.1
11. 行政が支援する必要はない(家庭や個人の問題である)	8	1.5	4	0.6
12. わからない	22	4.0	29	4.4
13. 未回答	8	1.5	9	1.4

中学2年生の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>学校の授業についていくための補習授業</u>	213	<u>46.7</u>	229	43.5
2. <u>進学のための経済的支援</u>	243	<u>53.3</u>	286	54.4
3. 不安や悩みを気軽に相談できる窓口の整備	147	32.2	173	32.9
4. 他者とうまくつきあっていくための手助け	99	21.7	87	16.5
5. 文化芸術、自然等を体験する機会の提供	187	41.0	200	38.0
6. 保護者の就労支援	69	15.1	72	13.7
7. 将来の子どもの就労支援	149	32.7	136	25.9
8. 子どもの養育に関する助言などの支援	60	13.2	67	12.7
9. 非行や犯罪を防ぐためのまちづくり	154	33.8	187	35.6
10. その他	9	2.0	14	2.7
11. 行政が支援する必要はない(家庭や個人の問題である)	5	1.1	6	1.1
12. わからない	23	5.0	25	4.8
13. 未回答	7	1.5	9	1.7

高校2年生の年齢の子どもの保護者

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>学校の授業についていくための補習授業</u>	105	<u>33.7</u>	152	33.0
2. <u>進学のための経済的支援</u>	189	<u>60.6</u>	261	56.6
3. 不安や悩みを気軽に相談できる窓口の整備	105	33.7	122	26.5
4. 他者とうまくつきあっていくための手助け	43	13.8	71	15.4
5. 文化芸術、自然等を体験する機会の提供	88	28.2	139	30.2
6. 保護者の就労支援	46	14.7	61	13.2
7. 将来の子どもの就労支援	99	31.7	158	34.3
8. 学び直しの支援	50	16.0	63	13.7
9. 子どもの養育に関する助言などの支援	35	11.2	40	8.7
10. 非行や犯罪を防ぐためのまちづくり	69	22.1	122	26.5
11. その他	7	2.2	15	3.3
12. 行政が支援する必要はない(家庭や個人の問題である)	6	1.9	9	2.0
13. わからない	20	6.4	25	5.4
14. 未回答	7	2.2	13	2.8

(7)若者支援

○ ひきこもり

買い物などの用事を除き、ほとんど自宅・自室から外出しない、若者を対象に、外出しなくなったきっかけを尋ねる設問においては、「病気」が33.3%と最も多く、「自宅で仕事をしている」が29.6%、「妊娠・出産・子育てのため」が22.2%と続く結果となりました。また、学校での不登校や職場、人間関係が原因による外出しなくなったという回答も一定数ありました。

この結果を踏まえ、庁内外の関係機関と連携し、ひきこもり支援の検討を行う必要があります。

【参考】調査結果

問 あなたが、あまり外出しなくなった、またはほとんど外出しなくなったきっかけや理由は何ですか。[あてはまるものすべて選択]

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. 不登校(小学校、中学校、高校)	1	3.7	3	13.0
2. 大学、専門学校に馴染めなかった	2	7.4	0	0.0
3. 受験に失敗した	0	0.0	1	4.3
4. 就職活動がうまくいかなかった	3	11.1	4	17.4
5. 職場に馴染めなかった	4	14.8	3	13
6. 人間関係がうまくいかなかった	3	11.1	6	26.1
<u>7. 病気</u>	9	<u>33.3</u>	4	17.4
<u>8. 妊娠・出産・子育てのため</u>	6	<u>22.2</u>	7	30.4
<u>9. 自宅で仕事をしている</u>	8	<u>29.6</u>	1	4.3
10. 介護・介助のため	0	0.0	2	3.7
11. その他の家事のため	1	3.7	5	21.7
12. その他	7	25.9	1	4.3
13. 未回答	3	11.1	2	8.7

○ 相談ニーズ

悩みや不安をどのような場所に相談するかという設問において、前回の調査結果と比較すると、「自分のペースでゆっくりと段階的な支援をしてくれる」という回答が大きく伸び、37.2%の回答がありました。

また、「専門家がアドバイスをくれる」と「自分の名前を知られずに相談できる」が37.5%と最も多い回答となりました。

この結果を踏まえ、相談支援策を検討していく必要があります。

【参考】調査結果

問 あなたは、どのようなところであれば、現在の悩みや不安について相談しようと思いますか。[あてはまるものすべて選択]

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. <u>専門家がアドバイスをくれる</u>	113	<u>37.5</u>	157	34.4
2. 同じ悩みを持つ人と出会える	88	29.2	146	31.9
3. <u>自分の名前を知られずに相談できる</u>	113	<u>37.5</u>	152	33.3
4. 自宅に相談に乗ってくれる人が来てくれる	15	5.0	21	4.6
5. いろいろな悩みをまとめて聞いてくれる	84	27.9	105	23.0
6. <u>自分のペースでゆっくりと段階的な支援をしてくれる</u>	112	<u>37.2</u>	114	<u>24.9</u>
7. 相談がなくても気軽に行くことができるフリースペースがある	64	21.3	76	16.6
8. 相談しようと思わない	90	29.9	141	30.9
9. その他	4	1.3	8	1.8
10. 未回答	1	0.3	2	0.4

○ 若者が考える子どもの頃にあったらよかった支援

子どもの頃にあったらよかった支援についての設問に対して、最も回答が多かった項目は、「進学のための経済的支援(38.9%)」であり、子どもを持つ保護者に行った調査と同様の結果となりました。次いで回答が多かった項目は、「文化芸術、自然等を体験する機会の提供(33.9%)」、「家庭や学校以外で放課後や休日に過ごせる居場所の提供(27.2%)」でした。

この結果を踏まえ、今後の子どもへの支援策の検討を行う必要があります。

【参考】調査結果

問 あなたが、子どもの頃に暮らしやすく、よりよい生活が送れるようになるために支援があればよかったと思うことはどのようなものですか。[あてはまるものすべて選択]

	R5(今回)		H29(前回)	
	単位:人	単位:%	単位:人	単位:%
1. 学校の授業についていくための補習授業	70	23.3	93	20.4
2. 進学のための経済的支援	117	38.9	175	38.3
3. 不安や悩みを気軽に相談できる窓口の整備	76	25.2	131	28.7
4. 他者とうまくつきあっていくための手助け	75	24.9	72	15.8
5. 文化芸術、自然等を体験する機会の提供	102	33.9	149	32.6
6. 保護者の就職に関する相談対応や手助け	29	9.6	39	8.5
7. 子どもの養育に関する保護者への助言などの支援	44	14.6	60	13.1
8. 家族が家にいないとき、低額・無料で夕食を他の人と食べることができる場所	53	17.6	82	17.9
9. 家庭や学校以外で放課後や休日に過ごせる居場所の提供	82	27.2	144	31.5
10. 就職に向けた相談対応やスキルアップ等の手助け	75	24.9	116	25.4
11. 非行や犯罪の防止	39	13.0	58	12.7
12. 高齢や障害等の理由によるお世話が必要な人への支援	32	10.6	—	—
13. 行政が支援する必要はない(家庭や個人の問題である)	10	3.3	25	5.5
14. わからない	47	15.6	56	12.3
15. その他	14	4.7	19	4.2
16. 未回答	6	2.0	11	2.4

令和5年度第3回葛飾区子ども・若者支援地域協議会 ご意見等一覧

1 令和5年度子ども・若者計画の実施状況について

(1) ご意見 なし

(2) 感想

No	内容
1	くらしのまるごと相談課が出来たことで相談がしやすくなり、良かった。
2	各分野でたくさんの取り組みが実施されていることが理解できた。 相談等に自分から来られた方には、ニーズに合った支援の情報の提供等がされていると考えられるが、支援の更なる活用ということでは、相談に行かない区民の方も情報が得られやすいシステムや環境、情報発信の方法等の工夫についても検討されるとよい。
3	学校給食費の完全無償化に対し、心より感謝する。
4	子ども総合センターが非常に機能し、充実してきており、今後も積極的に取り組んでいただきたい。
5	くらしのまるごと相談事業との連携による、ヤングケアラー負担軽減支援に期待する。

2 専門部会の委員の選任について

(1) ご意見

No	ご意見	回答
1	<p>現場で活動されている方の声を反映できるよう、実りある話し合いをしていただきたい。</p> <p>アドバイザーが出席されますが、受託事業者を教えてください。</p>	<p>区内3か所の子ども未来プラザにて、学習等の意欲を喚起する事業としてかつしか子ども応援事業を行っています。現在は、3か所とも事業者が異なるため、専門部会の検討の方向性と合った委託事業者へ依頼する予定です。</p> <p>また、若者に関する相談事業受託事業者については、現在若者相談窓口業務を受託していただいております、「社会福祉法人 新栄会」に依頼する予定です。</p>

(2) 感想 なし

3 葛飾区子ども・若者に関する調査の速報値について

(1) ご意見

No	ご意見	回答
1	<p>年代が上がるごとに回答率が少なくなっている。</p>	<p>今回の調査において、調査期間の延長やお礼状兼督促はがきの送付を実施しました。今回の調査結果を踏まえて、今後調査方法などについて検討してまいります。</p>
2	<p>5～6才、小学2年で、「子どもに家族などの世話や食事を作るようお願いしたことがある」が、それぞれ13%、17%あることは、非常に憂慮すべき状況と思われる。</p>	<p>世話や食事を作ることは一見「お手伝い」に見えてしまうこともありますが、長時間・長期間にわたっての「お手伝い」は子どもの負担になりかねません。本人や家族に自覚がなく、問題が表面化しにくい構造であるため、支援者に限らず広く区民へヤングケアラーの認知度向上に対する取組を、引き続き行ってまいります。</p>

No	ご意見	回答
3	全年齢でしつけの一環として顔や体を叩くことがあるが増加しており、虐待へ進まないよう対策が必要と思われる。	今回の調査結果では、「しつけの一環として顔や体を叩くことがある」という設問に対し、「あてはまる」、「どちらかというにあてはまらない」は減少傾向にあり、「あてはまらない」は増加傾向にあります。しかし、虐待防止については、引き続き対策を行っていく必要があると考えます。
4	公的な支援センター（子ども発達センター、児童発達支援センター、総合教育センターetc）の存在を知らない方が多くいるため、周知できる取り組みがもう少し必要かと思う。	区の事業などの周知は主に広報などを通して行われていますが、本課において、相談・支援先を紹介した「葛飾区子ども・若者応援ガイド」を作成し、周知を行っております。引き続き、多くの区民が事業を知ることができるよう、周知を行ってまいります。
5	質問事項として、子ども本人に対して「自分の将来が楽しみだ」に違和感があった。夢や希望といった文言をあえて使用しないのは、なぜか。	質問事項については前回調査と比較が出来るよう、同様の選択肢にしております。また、設問や選択肢については「東京都子供の生活実態調査」を参考に作成しております。 <東京都子供の生活実態調査 抜粋> 設 問 あなたの思いや気持ちについて、もっとも近いものに ○をつけてください。 選択肢 自分の将来が楽しみだ

(2) 感想

No	内容
1	各世代のいろいろな側面がみられるとてもよい調査だと感じた。 今後の支援の実施や周知の方法などを考える際、とても参考になると思う。
2	全年齢で経済面の悩みや不安が30%台、進学のための経済的支援が、必要との回答が50%と経済的な問題が多いことがわかった。

No	内容
3	中2の相談できる相手として父親が増加しているのは、働き方や子育ての意識の変化があると捉えられるのなら、いい傾向だと思う。それに反して、SNS+その他+いないが15%に注目したい。

4 自由意見

(1) ご意見

No	ご意見	回答
1	<p>アンケート調査により、非常に多くの情報を得ることができ、今後の施策に生かすことができると思う。</p> <p>経済的な不安、進学のための経済的不安、将来への進学を含めた不安が大きいことがわかった。</p> <p>子どもに対して、身体的、言葉による暴力が前回より増加しており、解決すべき課題である。</p> <p>低学年～5年生の不登校の相談先として多くが担任や医療機関となっており、別の機関への道筋をつけて、もう少し幅広いサポートができればと考える。</p> <p>5～6才から家族の世話や食事を頼まれる状況は、ヤングケアラーとなっている可能性もあり、このようなお子さんを小学校、保育園などで見つけ出していければと思う。</p>	<p>アンケート調査については、区民の様々な不安や課題、支援のニーズが見えてくるものとなっておりますので、今回の(仮称)葛飾区子ども総合計画策定の基礎データだけにとどまらず、様々な施策を考えていくうえで参考になるものと考えております。</p>
2	<p>速達で届けられましたが、提出期限が短く、資料拝読の圧を受ける。子ども、若者に関するアンケート調査の結果を生かし、反映させ、改善に努めると共に、取り組む体制が図られているのか？</p>	<p>お忙しい中ご対応いただきまして、申し訳ございません。また、今後は提出期限に十分配慮させていただきます。</p> <p>今回の調査結果は、これから策定いたします(仮称)葛飾区子ども総合計画にて取りまとめる予定です。これまでも子ども・若者施策に取り組んでおりましたが、策定する(仮称)葛飾区子ども総合計画に基づいた改善に努めてまいります。</p>
3	<p>生き生き学ぶ、ひとづくり、教育環境づくりの推進を図る活動に取り組まれているのか？</p>	<p>今回の調査結果は、これから策定いたします(仮称)葛飾区子ども総合計画にて取りまとめる予定です。今後は、計画に位置付ける事業についても教育委員会事務局と協力しながら、進めてまいります。</p>

No	ご意見	回答
4	<p>子ども未来プラザにおける子ども応援事業（学習支援）に関して、委託選択基準を教えてください。</p> <p>いくつかの算定基準があるのかと思うが、子どもたちにとって何が最優先されるべきなのかと大人の事情で決めた基準に隔たりがあるのではないかと思う。</p> <p>一年ごとに事業者が変わる今の制度を見直していただきたいのと、子どもたちの生活している環境をどれだけ把握して事業に携わっているのかの評価と指導をしていただきたい。</p>	<p>かつしか子ども応援事業における参加要件としては次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 受注者は、本業務を遂行するに当たって、次の2に掲げる類似案件の受注実績に携わった経験を有する者を管理責任者として配置できること。 2 平成31年度以降に、国・都道府県・市区町村等の自治体において、小学生から高校生世代の子どもを対象に以下の①～④のいずれかの類似案件の受注実績があり、適正に履行を完了していること。 <ol style="list-style-type: none"> ① 日常生活の中から興味や関心を引き出すための支援や、子ども同士の交流や多世代交流の場を提供し、互いに支え合うネットワークの形成を図ることを目指す支援 ② 非認知能力や社会的スキルを高める支援 ③ 就学・就労などの意欲を喚起する支援 ④ 中途退学未然防止のための支援や、中学校卒業後進路未決定者や高校中退者の学び直しの支援

(2) 感想

No	内容
1	<p>地理的条件がいい人は利用しやすいが、相談ない人は利用しない（できない）と思う。</p>

葛飾区子ども・若者基本構想

令和6年3月

葛 飾 区

葛飾区子ども・若者基本構想の策定に当たって

葛飾区では、かねてより学校教育や保育、保健をはじめ様々な分野で子どもや若者、子育てに対する支援を積極的に実施してきました。また、区全体で子どもの権利を大切に守り、子どもの健やかな成長を支えていくため、子どもの権利についての基本的事項を定めた「葛飾区子どもの権利条例」を昨年10月に施行しました。

このような中で、いまを生き、そして本区の将来を担う子ども・若者の健やかな成長をこれまで以上に支えていくためには、区民や事業者等と協働し、子ども・若者や子育て支援の視点を反映した総合的なまちづくりを地域社会全体で推進していく必要があります。

そこで、この度「葛飾区子ども・若者基本構想」を策定しました。本構想では3つの理念として、「子ども・若者一人一人の状況に応じた切れ目のない支援」、「子ども・若者が安全・安心・快適に暮らし続けられる環境の整備」、「子ども・若者が夢や希望に向かってチャレンジし、将来にわたって活躍できる環境の整備」を掲げ、将来像に『「このまちで育ったこと、このまちで育てたこと」を誇れるまち・かつしか』と決めました。

私は、この将来像を実現するため、全ての政策・施策に子ども・若

者や子育て支援の視点を反映させ、区民や事業者、関係団体等と協働して区全体で一丸となって子ども・若者の健やかな成長を支えています。そして、子ども・若者が夢や希望をあきらめることなく様々なチャレンジを行うことを応援していきたいと考えております。

最後に、「葛飾区子ども・若者基本構想」の策定に当たり、区議会をはじめ、子どもや若者など多くの区民の皆様から貴重なご意見をお寄せいただきました。心より感謝申し上げます。



令和6年3月

葛飾区長 青木 克徳

目次

1	策定の背景	1
2	構想の役割と位置付け	3
3	構想の理念	4
4	目指すべき将来像	5
5	基本的な方向性	6
(1)	方向性1 子ども・若者一人一人を大切にし、子ども・若者が喜びや幸せを感じながら、成長できるまちをつくれます。	6
(2)	方向性2 多様な遊びや体験を通じて、子ども・若者が心豊かにたくましく成長できるまちをつくれます。	7
(3)	方向性3 子どもが質の高い教育環境の中で、豊かな人間力を培うことができるまちをつくれます。	8
(4)	方向性4 安全・安心な環境で、子ども・若者が育ち、子育てできるまちをつくれます。	9
(5)	方向性5 子どもを産み育てる子育てを全力でサポートするまちをつくれます。	10
(6)	方向性6 快適で住みよい環境の中で子ども・若者が育ち、保護者が子育てできるまちをつくれます。	11
6	構想を実現するために	12

1 策定の背景

葛飾区では、これまで、子ども・若者¹や子育て支援を区政の最重要施策の一つに位置付け、子ども・若者や子育て支援に関する様々な事業を、区民や事業者等と連携・協力して推進してきました。また、令和5年10月には、子どもの最善の利益が実現される「かつしか」を目指し、区全体で子どもの健やかな成長を支えていくため、子どもの権利を大切に守っていくための基本となる事項を定めた「葛飾区子どもの権利条例」が施行されました。さらに、これを具体化する一つ的手段として、同年10月1日に「子どもとその家庭が安全で安心して自立した生活ができるかつしか」の実現を図るため、葛飾区児童相談所を開設しました。

このような中、本区の乳幼児人口は、平成29年度以降減少しており、令和5年4月1日現在で2万人を下回っています。また、本区が令和5年度に実施した「子育て支援に関するアンケート調査」において、安心して子育てできる環境についての本区の評価に関する質問に対し、保護者の回答では、肯定的回答が6割以上と増加傾向になっております。一方で、自分の考えや判断を表現できる力を身につけ、大人に成長できる環境についての本区の評価に関する質問に対し、子ども・若者の回答では、肯定的回答が4割弱と減少傾向にあり、本区の将来を担う子ども・若者に対する更なる支援が必要です。

1 「子ども・若者」…「子供・若者育成支援推進大綱」を参考に、子どもは、乳幼児期、学童期（小学生）、思春期（中学生からおおむね18歳まで）の者のことを言います。若者は、思春期、青年期（おおむね18歳からおおむね30歳未満まで）の者と、施策によってはポスト青年期（40歳未満まで）の者のことを言います。

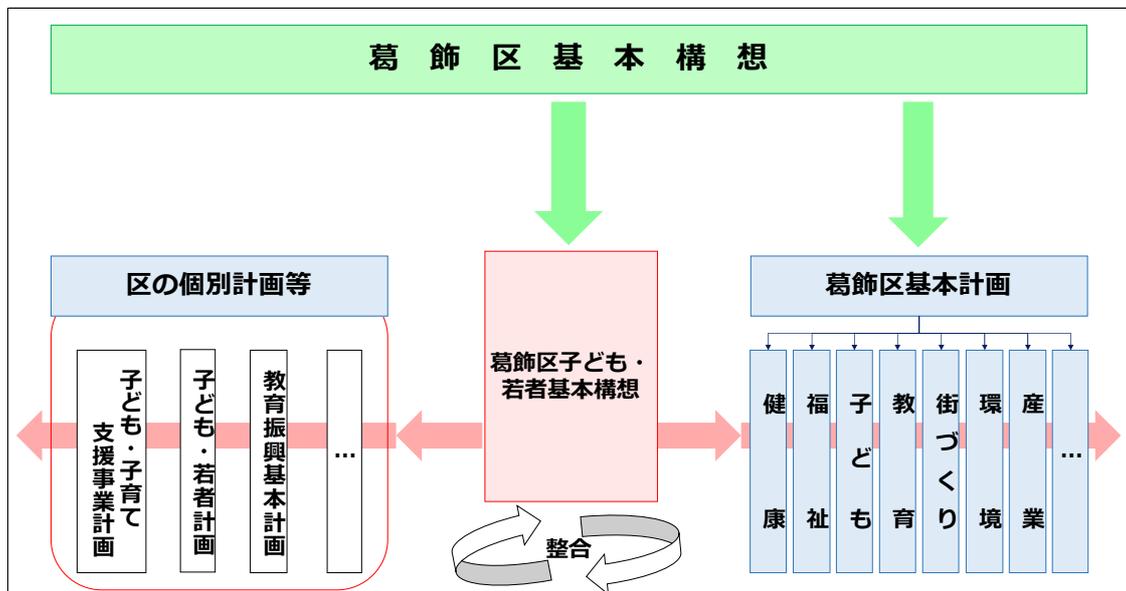
こうした状況を踏まえ、本区が、将来にわたって、持続可能なまちとして発展していくためには、まちづくり全体の中で子ども・若者や子育て支援を積極的に推し進め、子育て世代を中心とした多くの人から住んでみたい、住んでよかった、住み続けたいと思われる魅力的なまちづくりを進めていくことが重要です。

このことから、子ども・若者や子育て支援施策を更に充実させ、子ども・若者を主体とした子ども・若者や子育て支援の視点を区政全般に反映した総合的なまちづくりを推進し、区は、区民、事業者等との連携・協力により持続可能な「かつしか」を実現するため、「葛飾区子ども・若者基本構想」を策定しました。

2 構想の役割と位置付け

本構想は、「葛飾区基本構想」の下、「葛飾区子どもの権利条例」の趣旨を踏まえ、「葛飾区基本計画」に位置付けられている全ての政策・施策やこれらと整合している本区の個別計画等を、子ども・若者や子育て支援の視点から横断的に捉え直して、総合的なまちづくりを推進していくための指針としての役割を持つものです。

【構想の位置付け】



3 構想の理念

全ての子ども・若者は、未来を担うかけがえのない存在であり、区全体で子ども・若者の健やかな成長を支えていくことにより、本区の持続的な発展を図っていく必要があります。

そのため、本区では、公共施設²の整備などのハード面と、子ども・若者や子どもの育ちに関わる者³への支援などのソフト面の両面にわたる全ての政策・施策等に、子ども・若者や子育て支援の視点を盛り込んだ総合的なまちづくりを推進していきます。

そこで、本構想では、このようなまちづくりを地域社会全体で推進するため、次の3点を理念として位置付けます。

- 子ども・若者一人一人の状況に応じた切れ目のない支援を行います。
- 子ども・若者が安全・安心・快適に暮らし続けられる環境を整えます。
- 子ども・若者が夢や希望に向かってチャレンジし、将来にわたって活躍できる環境を整えます。

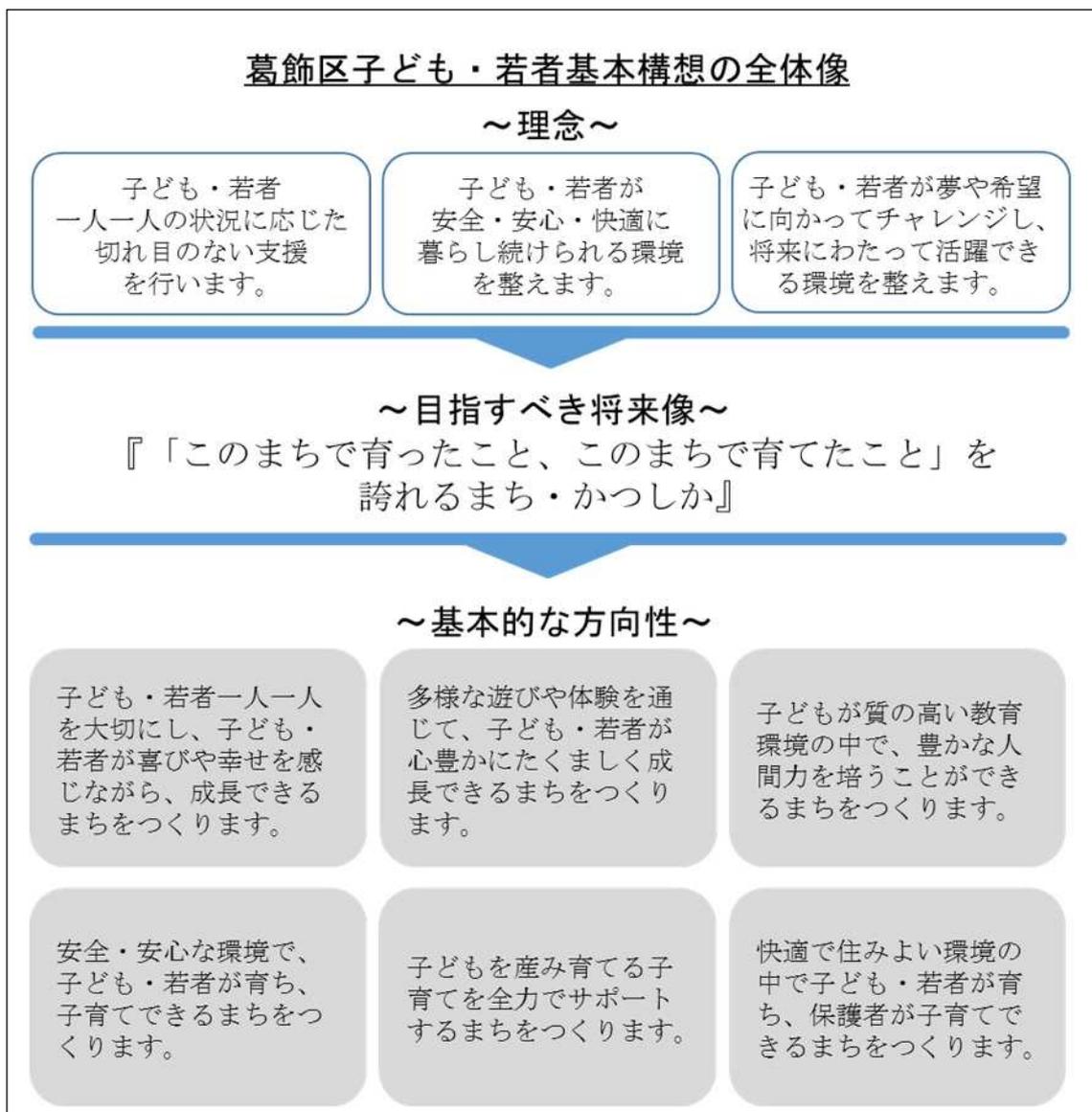
2 「公共施設」…道路、公園、学校、庁舎、子ども未来プラザ、学童保育クラブ、地域コミュニティ施設等のことを言います。

3 「子どもの育ちに関わる者」…主に、父・母などの保護者、地域住民、支援団体の構成員、子育て支援施設の職員等のことを言います。

4 目指すべき将来像

今後、本区が、子ども・若者の健やかな成長を支えるに当たっての目標となる将来像を次のとおり定めます。この将来像の実現に向け、区は、区民、事業者等と連携・協力し、地域社会全体で取組を推進していきます。

『「このまちで育ったこと、このまちで育てたこと」を
誇れるまち・かつしか』



5 基本的な方向性

本構想では、目指すべき将来像を実現するため、次の6点を基本的な方向性として定め、区は、区民、事業者等と連携・協力して取り組んでいきます。

(1) 方向性1 子ども・若者一人一人を大切にし、子ども・若者が喜びや幸せを感じながら、成長できるまちをつくります。



ア 子ども・若者一人一人が意見を自由に表明でき、その意見が十分に尊重されるまちをつくります。

イ 生まれ育った環境、性別、障害などによるあらゆる差別がなく、子ども・若者一人一人が持てる個性と能力を発揮して、自分らしく輝けるまちをつくります。

ウ 一人一人が思いやりの心をもって、多様な個性・文化・習慣を認め合いながら共生できるまちをつくります。

エ 発達の遅れや障害のある子ども・若者が、環境に左右されず自らの可能性を最大限に発揮し、自分らしく成長できるまちをつくります。

オ あらゆる子ども・若者が孤独や疎外感、将来への不安を感じることなく、安心した生活を送りながら成長し、進学や就職など希望する将来に進めるまちをつくります。

(2) 方向性2 多様な遊びや体験を通じて、子ども・若者が心豊かにたくましく成長できるまちをつくります。



ア あらゆる子ども・若者が、気軽に集い、憩い、心を通わせながら、自由な遊びやレクリエーションなど一緒に活動できるまちをつくります。

イ 地域の中で、ふるさと葛飾を愛する心や誇りを育みながら、心豊かに成長できるまちをつくります。

ウ 学校の放課後や三季休業中などでも、子ども・若者一人一人が自由な遊びや様々な体験のできるまちをつくります。

(3) 方向性3 子どもが質の高い教育環境の中で、豊かな人間力を培うことができるまちをつくります。



- ア 変化の激しい社会でたくましく成長して活躍できるよう、時代に求められる資質・能力が身に付けられる学校教育を実現するまちをつくります。
- イ グローバル社会を生き抜く国際感覚、深い学びや文化・芸術に触れる経験の中で培われる資質・能力、豊かな人間性・人格、スポーツに親しみながら健康に生きる力を育めるまちをつくります。
- ウ 教育環境の維持・向上を図り、子どもが安全・安心でいきいきと学校生活を送れるまちをつくります。
- エ 乳幼児期から青年期に至るまでの切れ目のない教育支援を行うとともに、一人一人の個性にあった多様な学習環境が充実したまちをつくります。
- オ 学校・家庭・地域が連携し、子どもの成長を社会全体で支援するまちをつくります。

(4) 方向性4 安全・安心な環境で、子ども・若者が育ち、子育てできるまちをつくります。



- ア 子ども・若者や保護者が、犯罪や事故などの不安を感じることなく、安全・安心に暮らせるまちをつくります。
- イ 災害に強いまちづくりを進めるとともに、子ども・若者や保護者の防災意識を高め、災害時でも地域で支え合いながら、安全・安心に過ごせるまちをつくります。
- ウ 子ども・若者や保護者が必要な時に必要な医療や相談支援を受けられ、衛生的で生涯を通じて健康に暮らせるまちをつくります。
- エ 子ども・若者が、基本的な生活習慣や基礎的な社会ルールを身に付け、成長した時に自らの力で安心して暮らせるまちをつくります。

(5) 方向性5 子どもを産み育てる子育てを全力でサポートする

まちをつくります。



ア 妊娠期から子どもが成人するまで、子どもやその家庭に寄り添いながら切れ目のない支援を行い、誰もが安心して子どもを産み育てられるまちをつくります。

イ 多様な教育・保育需要に合わせた質の高いサービスを提供するとともに、働きやすく、子育てしやすいまちをつくります。

ウ 地域や支援関係機関⁴と連携・協力し、顔の見える関係をつくりながら、地域の一員としての子ども・若者を健全に育めるまちをつくります。

エ 経済的な不安を軽減し、安心して子育てできる環境を整え、子ども・若者の輝かしい未来を実現できるまちをつくります。

4 「支援関係機関」…主に、民生委員・児童委員、地域の支援団体・ボランティア団体、NPO 法人等のことを言います。

(6) 方向性6 快適で住みよい環境の中で子ども・若者が育ち、保護者が子育てできるまちをつくります。



- ア 子ども・若者や保護者にとって、地域特性に応じた快適で利用しやすい公共施設が整備されたまちをつくります。
- イ 子育てしやすい快適な住環境を整え、子ども・若者や保護者が住んでみたい、住み続けたいと思えるまちをつくります。
- ウ 安全で利便性の高い公共交通や交通機能が充実した、子ども・若者や保護者にとって快適に移動できるまちをつくります。
- エ 人情豊かな多くの人々でにぎわう、便利で快適な生活環境で子ども・若者が育ち、保護者が子育てできるまちをつくります。
- オ 先進的なデジタル技術を活用した、子ども・若者や保護者が快適に生活できるまちをつくります。
- カ 豊かな水や緑、花々などに囲まれた美しく心安らぐ快適な環境を守り、将来にわたって子ども・若者の育ちと保護者の子育てを支える持続可能なまちをつくります。

6 構想を実現するために

本構想に掲げる将来像を実現するため、基本的な方向性に位置付けている子ども・若者や子育て支援の視点について、全ての部局が共通認識を持ち、子ども・若者が夢や希望を実現できるよう、組織横断的な取組を進めていきます。

今後、全ての部局が、所管する個別計画の策定などのあらゆる機会を捉えて、本構想の理念を反映させるとともに、子ども・若者や保護者はもとより地域や事業者等の声を聴きながら、区全体で連携・協力して、子ども・若者や子育て支援の視点を反映した総合的なまちづくりを推進することで、本構想を実現していきます。